

豊太郎は最低な人間だ。

私がこのテーマを取り上げたのは、豊太郎の性格や行動がエリスを苦しめたと思ったからだ。これからこのテーマについて豊太郎の性格やエリスの豊太郎に対する想いの二点から述べようと思う。豊太郎は優柔不断な性格であり、それによって豊太郎のことを本当に愛しているエリスを欺き、そして苦しめた、最低な人間である。

まず一点目は、豊太郎は優柔不断な性格や行動であるという点である。

豊太郎は相沢から「またかの少女との関係は、よしや彼に誠ありとも、よしや情交は深くなりぬとも、人材を知りての恋にあらず、慣習といふ一種の惰性より生じたる交はりなり。意を決して断てと。」と言われて出世を選ぶかエリスとの生活を選ぶか迷っていた。だが結局は「我が弱き心には思い定めん由なりしが、しばらく友の言に従ひて、この情縁をたたんと約束しき。」と、追い詰められてなかなか決心のつかない弱い心では考えを決める手だてなどはなかったから、その場しのぎのように友達の言葉に従っている。また豊太郎はエリスと離れてロシアにいるとき、エリスからの手紙を読んで、「余は我が身一つの推退につきても、また我が身にかかはらぬ他人のことにつきても、決断ありと自ら心に語りしが、この決断は順境にのみありて、逆境にはあらず。」と言っている。この二つのことから、私は豊太郎が逆境に弱い優柔不断な性格だと考える。

二点目はエリスが豊太郎のことを本当に愛していたという点である。

エリスは相沢から豊太郎がエリスに隠していたことやエリスと別れるといったことをつたえたときにエリスは「我が豊太郎ぬし、かくまでに我をば欺きたまひしか。」と叫んで倒れ、その後精神障害の病気になってしまった。エリスは精神的な病気になるほどそれを聞いてショックであり、豊太郎のことを愛していたのだ。また、豊太郎がそのことについてエリスに何の相談もないまま欺いてきたことにも絶望し、本当に自分が豊太郎に愛されていたのかわからなくなり、それが「過激なる心労」となってしまった。この二つのことから、私はエリスが豊太郎のことを本当に愛していたと考える。

以上より、エリスとの別れを相沢に約束させてしまい、またエリスにそのことを伝えることのできなかった豊太郎の逆境に弱い優柔不断な性格が、本当に自分を愛してくれているエリスを苦しめた。よって私は、豊太郎は最低だと考える。